

シンポジウム開催の趣旨

中村俊夫（名古屋大学年代測定資料研究センター）

成尾英仁（鹿児島県立串木野高等学校）

奥野 充（名古屋大学大学院人間情報学研究科）

南九州には桜島火山をはじめとして多くの第四紀火山があり、これらの火山から噴出したテフラが数多く分布している（図1）。これらのテフラは、火山の噴火史のみならず考古学的編年にも活用されている。なかでも、6.3kaに鬼界カルデラから噴出したアカホヤテフラ（K-Ah）は、南九州から本州の東北南部までの広い範囲を覆っており、縄文時代の広域指標層として重要な役割を果たしている。南九州ではこのK-Ahを鍵層として用いることにより、それまでの縄文土器の編年が修正された。また、K-Ahを境として前後で南九州の文化が大きく変容したことも指摘されている。桜島火山から11kaに噴出した薩摩テフラ（Sz-S）も南九州一円に広く分布している。このSz-Sの直下からは縄文時代草創期に属する遺物群の出土が報告され、この時期すでに定住生活を営むような先進地域であったことが明らかになっている。

これらの年代決定に用いられた¹⁴C年代測定法は、1950年頃にLibby（1955）によって開発された。この測定法は、炭素を含むあらゆる試料に適用できるように応用範囲が広いこと、最近数万年間の試料を対象とする年代測定法の中では最も信頼できる方法の1つであることから、地質学、考古学、環境科学など様々な分野で利用されている。また、近年ではより正確な年代決定のために炭素同位体分別効果の補正や年輪年代学との比較による暦年代への較正などの進歩がみられる。加速器質量分析計による¹⁴C年代測定は、従来の放射能測定による方法と比較して約1/1,000と微量試料で測定可能であることから、これまでは考えられなかった資・試料についての年代値が得られつつあり、これによって多岐にわたる分野で新たな研究の進展が期待されている。

しかし、それぞれの分野によってその背景となるものが異なるため要求される精度も様々であり、学術用語の使用法にしても分野ごとに意味合いが微妙に異なることはよくみられることである。学際的な研究では、このような問題の克服は避けて通れないことである。そのためには隣接した分野の相互理解は必要不可欠なものと考えられる。今回のシンポジウムでは、¹⁴C年代測定を中心として古地磁気学、考古学、文献史学などの編年学・年代学的な研究とそれに関連する火山学や古環境学などの広い範囲をカバーして（表1）、これらの諸分野間の情報交換を目的とするものである。このシンポジウムをきっかけとして、新たな学際的な研究が進展することを期待するものである。

発表者の方々には、上記の趣旨をご理解いただいて快くご講演を引き受けていただいた。特に鹿児島大学教養部の上野宏共教授、理学部の小林哲夫助教授、横田修一郎助教授には会場の準備などでもご協力いただいた。ここに記して厚く感謝の意を表するものである。

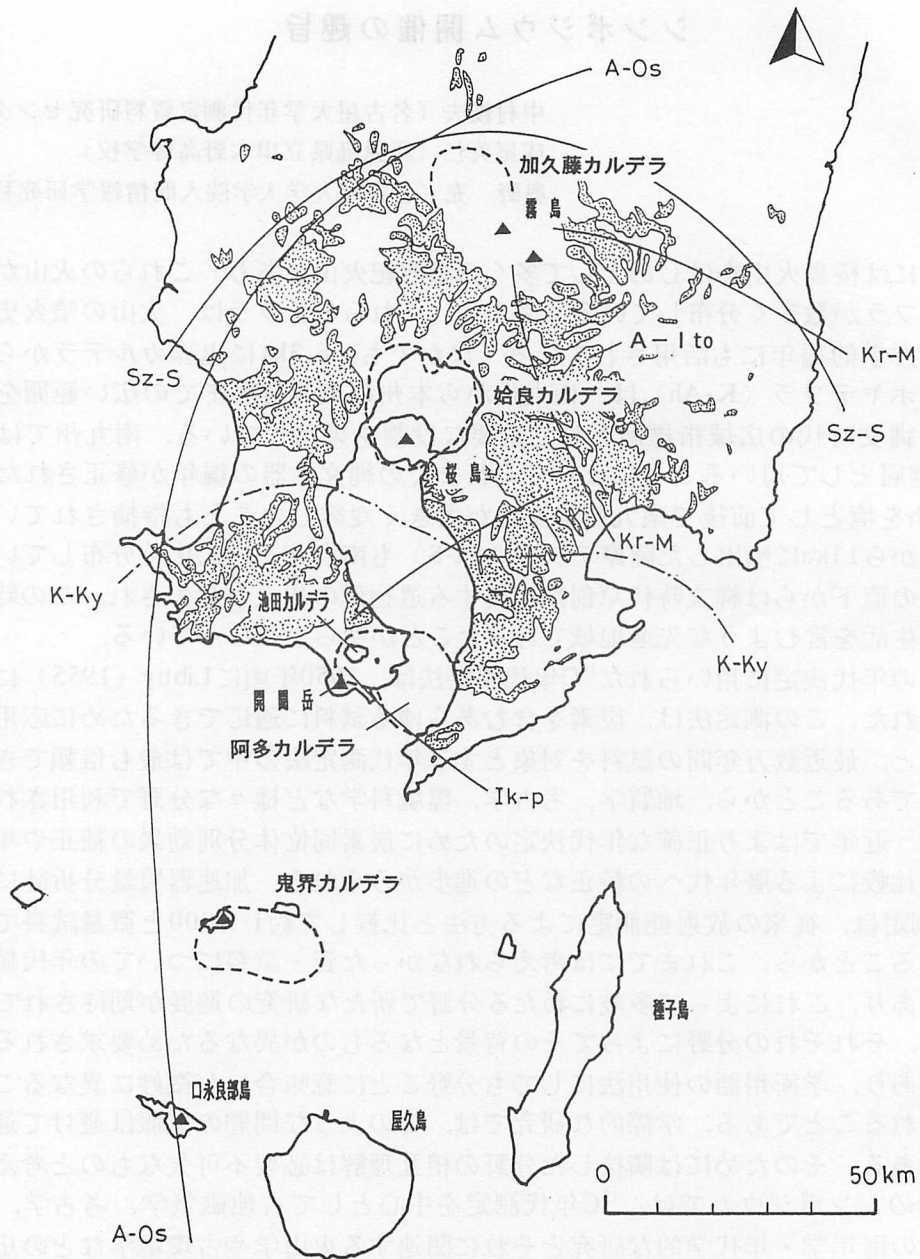


図1 南九州の火山と第四紀後期の主なテフラ

A-Ito : 入戸火砕流, A-Os : 大隅降下軽石, Sz-S : 薩摩テフラ

K-Ky : 幸屋火砕流, Ik-p : 池田降下軽石, Kr-M : 御池テフラ

Fig. 1 Distribution of Quaternary volcano and tephra layers on Southern Kyushu

A-Ito: Ito ignimbrite, A-Os: Osumi plinian pumice, Sz-S: Satsuma tephra

K-Ky: Koya ignimbrite, Ik-p: Ikeda plinian pumice, Kr-M: Mike tephra

表1 名古屋大学加速器質量分析計シンポジウムプログラム

Table 1 Program of Symposium on Tandemron Accelerator Mass Spectrometer, Nagoya University

-
- | | | |
|---|---|----------------------|
| 1. シンポジウム開催の趣旨 | 名古屋大学年代測定資料研究センター
鹿児島県立申木野高等学校
名古屋大学大学院人間情報学研究科 | 中村俊夫
成尾英仁
奥野 充 |
| 2. 加速器質量分析法による ¹⁴ C年代測定の現状と考古学試料への応用
—古代鉄の年代測定— | 名古屋大学年代測定資料研究センター | 中村俊夫 |
| 3. 加速器質量分析計による文化財資料の ¹⁴ C年代測定 | 名古屋大学大学院理学研究科 | 小田寛貴 |
| 4. 文献から見る平安時代の開聞岳噴火
ラ・サール学園 | | 永山修一 |
| 5. 南九州の火山灰と土器型式 —アカホヤ火山灰以前を中心として— | 都城市教育委員会 | 桑畑光博 |
| 6. 南九州の火山灰と土器型式 —アカホヤ火山灰以降— | 鹿児島県埋蔵文化財センター | 東 和幸 |
| 7. 開聞岳の噴火災害—橋牟礼川遺跡を中心に | 鹿児島県立申木野高等学校
指宿市教育委員会 | 成尾英仁
下山 覚 |
| 8. 桜島火山の噴火史 | 鹿児島大学理学部地学教室 | 小林哲夫
江崎真美子 |
| 9. 桜島火山歴史溶岩の考古地磁気 | 鹿児島大学教養部地学教室
鹿児島大学理学部地学教室 | 上野宏共
村岡慶子
小林哲夫 |
| 10. 南九州のテフラの加速器 ¹⁴ C年代（予報） | 名古屋大学大学院人間情報学研究科 | 奥野 充 |
| 11. 地形学からみた南九州の海水準変化—古環境変化と火山噴火 | 鹿児島大学法文学部地理学教室 | 森脇 広 |
| 12. ボーリングコア試料の ¹⁴ C年代に基づく鹿児島沖積平野の形成 | 鹿児島大学理学部地学教室
名古屋大学大学院人間情報学研究科 | 横田修一郎
奥野 充 |
| 13. 南九州の植生と古環境 | 古環境研究所 | 杉山真二 |
| 14. 総合討論（司会：成尾英仁） | | |
-